

薬剤性腸炎の起因薬剤としては抗生物質によるものが最も多いが、近年の高齢化社会を反映し、世界で一番多く処方されている消炎剤であるNSAIDsの使用頻度がわが国でも増えている。また、大腸癌検診による便潜血検査や全大腸内視鏡検査の普及とともに、NSAIDsに起因した薬剤性腸炎の報告例が増加しつつある。本号では、NSAIDs起因性腸炎の臨床像を明らかにするとともに、抗生物質起因性腸炎やそのほかの薬剤性腸炎の臨床像について、鑑別診断を含めて再整理した。なお“薬剤起因性”の診断基準として、①発症時(あるいは発症直前)に起因薬剤の投与がなされていること、②糞便あるいは生検組織の培

養検査が施行され、感染性腸炎が否定されていること、③起因薬剤の投与中止のみで、臨床症状および画像所見(X線・内視鏡所見)の改善を認めていることの3条件を満足すること(飯田)とした。

NSAIDs起因性大腸病変は潰瘍型と腸炎型に大別され、発生機序も異なる可能性が示唆されている(松本ら、八尾ら、飯田)が、両者の病態・発生機序の解明が待たれる。消化管検査に携わる消化器専門医だけでなく、一般内科医や整形外科医なども本症の存在と臨床像を熟知しておく必要があり、本号が1人でも多くの読者の明日からの診療に役立つことを期待したい。

胃と腸

9月号(第35巻・第10号) 予告

発売予定 9月25日
定価 (本体2,300円+税)

主題/食道アカラシア

序 説	食道アカラシア	東京都立駒込病院・外科	吉田 操
主 題	食道アカラシアの病態—食道運動と neurotransmitter	京都府立医大・第1内科	内藤 裕二・他
	食道アカラシアの病理—発生機序からみて	兵庫医大・第2病理	西上 隆之・他
	食道アカラシアの病理—発癌母地として	慶應義塾大・外科	小澤 壯治・他
	食道アカラシアの診断—X線診断	千葉大・第2外科	岡住 慎一・他
	食道アカラシアの内視鏡診断	千葉大・光学医療診療部	神津 照雄・他
	食道アカラシアの診断—機能診断	東京医歯大・第1外科	中島 康晃・他
	食道アカラシアの治療—内科的治療	日医大・第3内科	小林 正文・他
	食道アカラシアの治療—外科的治療	東海大・外科	幕内 博康・他
主題症例	アカラシアに合併した食道多発早期癌の1例	佐久総合病院・内科	小山 恒男・他
	食道アカラシアに合併した食道多発表在癌の1例—異常 p53 蛋白 発現からみた癌発生母地としてのアカラシア	順天堂大・第1外科	梶山 美明・他
	食道アカラシアに合併した広範囲 0-IIc 型食道癌の1例	北里大東病院・消化	佐伯 威男・他

胃と腸 (第35巻 第9号)

編集 早期胃癌研究会

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 本誌編集室直通(03)3817-5714

FAX (03)3815-7802/3815-7982

E-mail: itocyo @ igaku-shoin.co.jp

2000年8月25日発行(毎月25日発行)

1部定価(本体2,300円+税)(配送料116円)

2000年年々ぎめ予約購読料35,140円

(2号分の増刊号を含む14冊)(送料弊社負担)

☎ 販売部直通(03)3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印刷所 永和印刷(株) ☎(03)3813-5001

広告取扱 文 栄 社 ☎(03)3814-8541

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 2000, Printed in Japan.

• 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

• **R** <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>

• 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得てください。

• 医学書院ホームページ(インターネット) <http://www.igaku-shoin.co.jp>

(担当)小長谷・永安・小松原・向山